

2022 年 9 月 25 日（日）公表

日本ランキング対象大会（スプリント競技、ランク A）



2021 年度 全日本オリエンテーリング 選手権大会 大会報告書

2022 年 6 月 4 日（土） スプリント競技部門

第 14 回全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）

The 14th Japan Sprint Orienteering Championships 2021

開催地

新潟県新潟市中央区 新潟県スポーツ公園・新潟県立鳥屋野潟公園鐘木地区

▶デンカビッグスワンスタジアム内および HARD OFF ECO スタジアム新潟内は使用しません。

会場

新潟県スポーツ公園 列柱廊

▶公式成績表は大会 Web サイトにて公表しています。

日本最速王者決定戦



ご挨拶

第14回全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）
実行委員長 瀬川 出



6月4日（土）2021年度全日本オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門を新潟県スポーツ公園および新潟県立鳥屋野潟公園鐘木地区にて開催いたしました。本大会には273名（うち、選手権クラス115名）の方にエントリーいただきました。大会当日には天候にも恵まれ、爽快な一日となりました。2019年度以来のスプリント競技の選手権者を定めることができたこと、多くの皆さまにスプリントを楽しんでいただけたことを運営者一同喜ばしく思います。

選手権クラスの決勝は、会場エリア周辺を度々通過するコースとなっております。選手の力走を間近で見る/応援されるコースを通じ、オリエンテーリングを愛する皆さまとトップ選手の皆さまがより親密なものになったのであればこれ以上嬉しいことはありません。

皆様から頂いたアンケート内容や運営者内での反省を活かし、次回以降より良い競技、大会を提供できるように努めて参りたいと思います。最後になりましたが、大会開催にあたって多大なるご理解ご協力を頂いた公園関係者の皆様、スポンサーの皆様、高野兼也さんを始めとする新潟にてオリエンテーリングを愛されている皆さま、並びにご関係者の皆様に、この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

スプリント競技開催にあたっては、フォレスト競技と異なり、一般の方も「日常」を過ごされているエリアでの開催となることがほとんどです。選手のためだけの「非日常」を用意することが難しいことをご理解いただけますと幸いです。その中でどのように公平な競技会を提供するか、運営者は神経をとがらせて準備を重ねました。今後継続的にスプリント競技を提供するにあたり、（例えば選手のためだけの「非日常」を用意するために多額の予算を確保するという選択肢……等も含め）検討を積み重ねなくてはならないことが沢山あります。これをお読みくださる皆さまとも、共により良い大会を創り上げることを私は望みます。

後援・協賛・パートナー

後援

公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、新潟県

協賛

有限会社ヤマカワオーエンタープライズ



JOA オフィシャルパートナー

かなめ測量株式会社、株式会社アークコミュニケーションズ、株式会社リテラメッド、株式会社デサントジャパン、サルミングジャパン、株式会社ニチレイ、株式会社ブライトコンパス



1

大会概要

▶参加者数

273 名（選手権クラス 115 名、選手権クラス以外 158 名）

▶天候

月日	天気概況 昼（06:00～18:00）	降水量 [mm]	平均気温 [°C]	最高気温 [°C]	最低気温 [°C]	日照時間 [時間]
2022 年 6 月 4 日	晴時々曇	-	16.5	19.1	15.0	6.7

※気象庁の過去の気象データ検索より引用しています。

過去の気象データ検索（気象庁）

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>

▶救護案件およびその対応

- ・打撲および裂傷を負った選手が 1 名。運営者で病院まで輸送を行い、縫合手術を受けました。
- ・目の周りに木の枝による刺し傷を負った選手が 1 名。大事には至りませんでした。

▶選手権クラス入賞者

ME				WE			
順位	氏名	所属	記録	順位	氏名	所属	記録
1	小牧 弘季	筑波大院/ときわ走林会	0:14:56	1	稲毛 日菜子	練馬 OLC	0:14:00
2	二俣 真	京大 OLC	0:15:03	2	伊部 琴美	OLC ルーパー	0:14:48
3	長岡 凌生	青葉会	0:15:25	3	松本 萌恵	-	0:14:52
4	伊藤 樹	設楽町/ES 関東 C	0:15:42	4	増澤 すず	京都 OLC/TORCH	0:15:11
5	前中 脩人	練馬 OLC/あざお OLC	0:15:43	5	小林 祐子	青葉会	0:15:36
6	橘 孝祐	ES 関東 C	0:16:06	6	皆川 美紀子	みちの会	0:15:47

▶年代別クラス優勝者

クラス	氏名	所属	記録	クラス	氏名	所属	記録
M21A	弓田 和生	東大 OLK	0:14:08	W21A	近藤 花保	名楯 OLC	0:14:45
M30A	田畑 清士	静岡 OLC	0:22:35	W30A	村越 久子	静岡 OLC	0:24:49
M40A	源後 知行	みちの会	0:15:10	W40A	高津 寿三鈴	Club 阿閨梨	0:22:52
M50A	稲葉 英雄	三河 OLC	0:14:22	W50A	丸山 由美子	見附 OLC	0:22:18
M60A	井上 仁	OLC レオ	0:15:39	W60A	小林 正子	ES 関東 C	0:21:35
M70A	山本 博司	ES 関東クラブ	0:20:10	W70A	植松 裕子	入間市 OLC	0:31:54
M80A	原野 幸男	所沢 OLC	0:20:27	W80A	-	-	-
M90A	高橋 厚	多摩 OL	0:34:47	W90A	-	-	-
M20A	佐藤 宏紀	千葉大学 OLC	0:15:00	W20A	坂池 なつほ	筑波大学	0:17:24
M18A	水野 舞人	県立千葉中学校	0:16:00	W18A	-	-	-
M15A	-	-	-	W15A	-	-	-
M12	水嶋 竜也	入間市 OLC	0:12:27	W12	-	-	-
M10	-	-	-	W10	-	-	-

1. 大会概要（つづき）

- ▶成績速報およびラップ解析を Lap Center に掲載しています。

選手権クラス予選、選手権クラス以外の成績速報、ラップ解析

<https://mulka2.com/lapcenter/index.jsp?event=7041>

選手権クラス A-決勝、B-決勝、エクストラレースの成績速報、ラップ解析

<https://mulka2.com/lapcenter/index.jsp?event=7042>

- ▶選手権クラス ME/WE A-決勝のコースを Livelox に掲載しています。同一コースを走った選手とルートを比較することができます。ぜひご覧ください。

選手権クラス ME/WE A-決勝のコース

<https://www.livelox.com/Events/Show/79681/>

- ▶大会当日の写真を公開しています。ぜひご覧ください。今後の広報活動等に利用することがあります。

大会当日の写真（日本オリエンテーリング協会）

<https://photos.app.goo.gl/uoTEsefn5bLkBPBr8>

大会当日の写真（Oriphoto 様）

<https://www.flickr.com/photos/foolishserow/albums/72177720299546822>

大会当日の写真（o-albums 様）

<https://photos.app.goo.gl/ddfzEzroAEa4j2sB9>

- ▶寄附者限定オンラインセミナーと本大会を振り返るオンラインセミナーを日本オリエンテーリング協会 YouTube チャンネルにて公開しています。ぜひご覧ください。

寄附者限定オンラインセミナー「スプリントの走り方」

<https://youtu.be/wffEsNtyVTc>

JOA オンラインセミナー「全日本スプリント振り返り」

<https://youtu.be/bJvGgqIFyNE>

- ▶以下のメディアに掲載いただきました。

新潟日報 2022 年 6 月 8 日朝刊

<https://www.niigata-nippo.co.jp/>

新潟日報 PHOTO Instagram

<https://www.instagram.com/p/CefQafTlLkE/>

<https://www.instagram.com/p/CefQkg6F-ul/>

https://www.instagram.com/p/CefQov0FW_A/

2 調査依頼・提訴

競技責任者 西下 遼介

今回の調査依頼2点に関して、会場周辺の立入禁止場所に対する運営側の措置が、競技者への配慮を欠いたものであった。

- ・選手権クラス ME/WE A-決勝のコントロール番号 1→2 における措置に対する調査依頼および提訴
- ・選手権クラス ME/WE A-決勝の橋におけるバリアの現地における表示に対する調査依頼

要因

▶直接的要因

会場周辺の設置物は決勝進出者隔離後に設置されたが、これら設置物に対して運営者で十分な確認ができる体制ではなかった。

▶間接的要因

- ・設置前の説明において、競技責任者が設置者に対し意図を伝えきれなかった。
- ・設置に際して作成された資料内容に不備があったが、直前の作成であったことから、運営者での確認不足を招いた。

以上の2点より、競技者、管理者（イベントアドバイザー）、および設置者の3つの立場において設置に対する共通認識形成の不足に繋がった。

各内容の経緯

▶選手権クラス ME/WE A-決勝のコントロール番号 1→2 における措置

1番コントロールから2番コントロールへの移動の過程で、車の往来があり、接触およびトラブルが発生する可能性が大きい駐車場を競技者が通過すると判断し、駐車場に立ち入らせないようなレイアウトとする予定だった。

具体的には、図1に示す「通過される可能性があった箇所」がこれに該当する。現地では藪の隙間をくぐって2番コントロールへと抜けることが可能であり競技者が通りかねないため、

- ・地図表記上で全て「通行不能な植生」で塗りつぶす
- ・さらにその手前で駐車場に立ち入らせないよう青黄ストリーマーを設置

以上2つの措置を取る形で運営者に合意を取ったものの、後者の設置位置で情報伝達の齟齬があった。本来青黄ストリーマーは駐車場の縁（青点線）に設置する予定だったが、直前に作成した設置資料においては図1の植え込みの間（赤実線）としてしまい、運営者同士で確認を取る間なく本番においても同様の箇所に設置を行った。

結果として1番コントロールから東側に抜けた場合に、青黄ストリーマーで進行方向を塞ぐ形となり、調査依頼および提訴へと繋がった。

2. 調査依頼・提訴（つづき）

各内容の経緯（つづき）

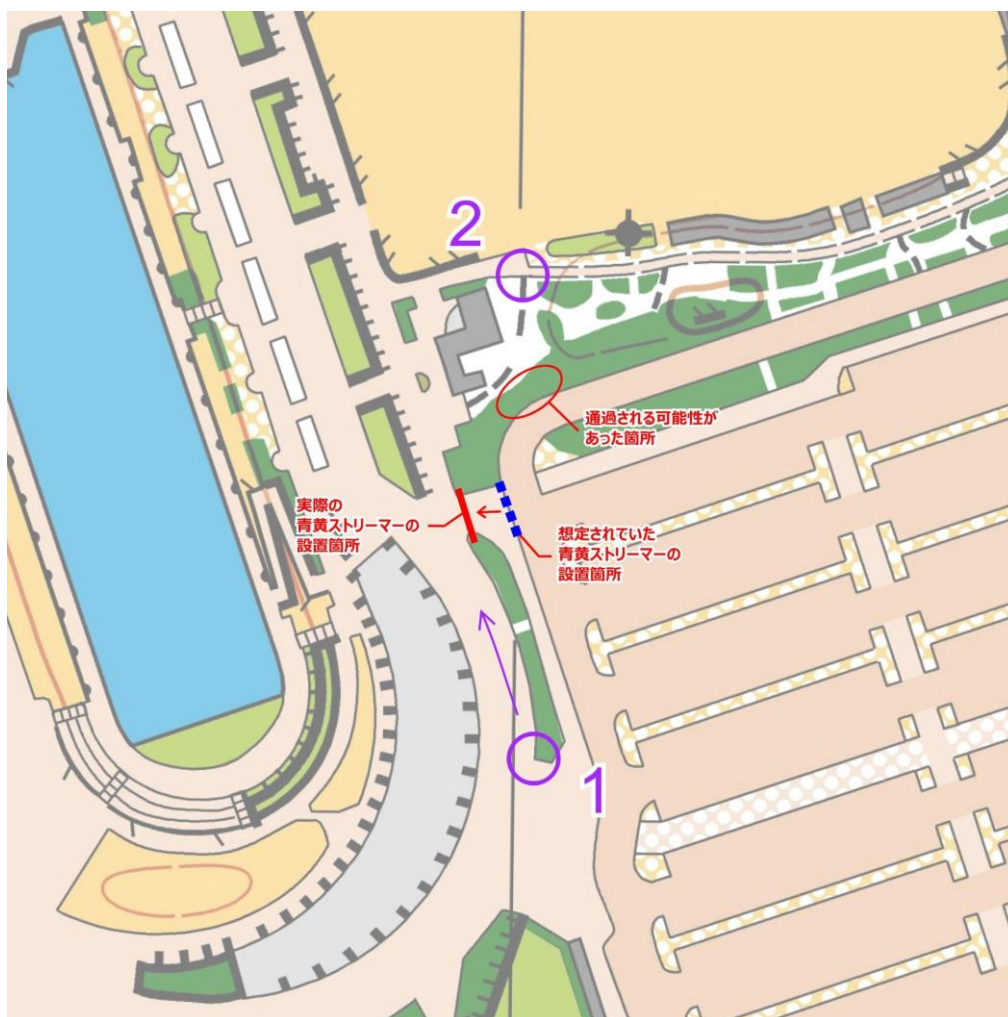


図1 問題箇所の説明図



図2 図1の「通過される可能性があった箇所」の現地状況（Google ストリートビューより引用）
植え込みに隙間があり、後ろの建物方向に抜けられるようになっていた

2. 調査依頼・提訴（つづき）

各内容の経緯（つづき）

▶選手権クラス ME/WE A-決勝の橋におけるバリアの現地における表示

ブリテン 3.1（プログラム）および公式掲示板（ブリテン 4（追加の競技会情報）含む）には、本大会において競技性を高めるためにバリアの設置の旨が記載されていた。そこで記されていた写真では、現地での表記の一例として

- ・該当箇所の地面に青黄ストリーマーを設置する

- ・該当箇所にコーンが設置されると共に、コーンには地面と垂直な方向に青黄ストリーマーが張られる

の写真を掲載していた。一例として示しているものの、実際に競技責任者は当日もこのような形で張ることを想定していた。しかし、前述した資料の確認不足と運営内での認識の統一ができていなかったことにより、本来あるべきバリアの姿とはならないまま競技が開催され、今回の調査依頼に繋がった。

▶立入禁止区域の複合利用

ルート選択に幅を持たせるため、「708 立入禁止の境界」および「709 立入禁止区域」との組み合わせでバリアを作成しています。現地ではコーンと青黄ストリーマーとの組み合わせで明示しています（写真は一例です）。競技中に通過した場合は失格となるため注意してください。（以下の地図は競技エリア（トレイン）ではありません）

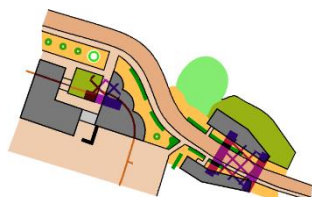


図3 ブリテン 3.1（プログラム）に掲載された情報
コーンについた青黄ストリーマーに加え、
地面にも掲載（ただし一例であることは表記済）



図4 競技責任者が想定していた
バリアの現地での表記



図5 当日のバリアの現地表記

3 課題と反省

実行委員長 瀬川 出

調査依頼・提訴に至った、立入禁止用の設置方法および設置個所の誤り

競技責任者、競技責任者補佐に運営負担が集中したことによる設置マニュアルの完成の遅れから、設定者、設置者、当日の設置確認者の認識に齟齬が生じ、立入禁止用の設置物と現地が一致しない事態となった。これにより、調査依頼・提訴に至った。これを防ぐためには、設置マニュアルのみならず、競技の公平性確保のための資料作成の重要性を改めて認識すること、そのための作業時間の確保と工程の見直し、工程の全体像の把握が重要である。

全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）の継続性

大会の継続にあたっての課題を述べる。

▶大会収支

依然として大会の収支は厳しい状況である。競技の公平性や競技エリアの安全性を確保するための試走経費や当日の人件費等の削減不可能な支出に対し、参加費収入が見合っていないことが原因である。加えて、参加者数の増加は渉外の難易度や安全性の確保の負担を増加させるというジレンマがあるため、構造的に収支の確保が難しい。

なお、大会収支改善のため、本大会では以下の3つを行ったが、それでも少くない赤字が発生している。

- ・大会参加費の値上げ
- ・寄付金の呼びかけ
- ・予選において一部のコントロールガードの配置を断念

これ以上の支出削減のためには、試走回数を減らす等の競技の公平性や安全性を妥協せざるを得ない状況である。

今後の健全な収支に変えていくための方法をいくつか記載する。

①参加費・寄付金による収入の増加

本大会で行ったような、大会参加費の値上げや寄付金によって収入の増加を確保することは、必要に応じて実施されるべきだと考えている。少くない額の寄付を頂いたことを、改めて心から感謝申し上げる。なお、大会参加者に対してアンケートを行い、参加費についても調査を行った。1を安い、5を高いにして5段階評価で回答いただいたところ、58件の回答のうち、60%が3との回答であった。

②全日本大会の参加者数の増加

先述のとおり、参加者数の増加が大会開催のハードルを上げる側面はあるものの、一定数の参加者が確保できることは非常に大切である。競技者からのニーズに応えた魅力あるスプリントの大会を継続的に開催し、大会への期待感を高めて参加者数を増やすことが重要である。

③参加費に頼らない収支構造への変化

②と逆をいうようであるが、競技エリアによっては大幅な参加者数の制限をかける必要も出てくるだろう。予選が開催できず、参加費による収入が見込めない大会になる可能性もある。今後は何らかの助成金獲得や、複数日大会として開催し単日としては赤字を許容できる体制を構築することが望ましい。①にも共通するが、その体制を構築するためには、日本のオリエンテーリングシーン全体に占めるスプリント競技のプレゼンスを高め、継続開催の重要性について共通認識を作りあげることが必要になると思われる。

3. 課題と反省（つづき）

▶競技の公平性と競技エリアの安全性

本大会において、不本意な失格者を出さないことを念頭に置き大会運営にあたった。しかし結果として調査依頼及び提訴が発生し、これを深く反省している。特にスプリント競技においては、競技の公平性確保のために作成することが望ましい資料が多い。コース決定から大会直前の最も忙しい時期に負担が集中し、確認すべき事項に抜け漏れが発生する。

競技責任者やコース・プランナーを中心にタスクを洗い出し、前倒しできる工程や分担を精査する必要がある。またスケジュールを含め、その工程・項目をリストアップし、どうしても忙しくなる時期や特にスプリント競技で発生しがちな突発的なトラブルに対処できるよう、運営組織全体でキャパシティを増やすことが肝要である。そのための大会運営ノウハウの洗練や蓄積が JOA に求められているし、規模の大きな大会を運営する際に個人やクラブで培ったそのノウハウを皆で持ち寄ることで、より良い大会となる。

本大会では、競技者による衝突事故等大きな事故は発生しなかった。一方で、来園者の方を含め、本当に安全な大会を提供することができたのか、大きな課題が残ったことも事実である。

大会当日のパトロール人員について、やや不足していたのが現状であったようだ。当日の来園者数も踏まえて数箇所追加で人員を配置すべきであった。また、来園者を驚かせてしまうような、コースに利用すべきでない箇所があったことも否めない。試走時にそれらについて考慮し、大会当日の来園者の情報を予め入手したうえでコース検討を行ったが、運営者全体で、様々な視点でコースを確認することの重要性を再認識させられた。運営者から、今後はトイレ等の人の出入りが多い箇所について、パトロール人員を増やすかコースから除外する等の措置を検討した方が良いという意見があがった。

一方で、競技の面白さの観点からコースに制限をこれ以上かけることも難しかったこと、また、先述のとおり大会収支の観点からパトロール人員の増加も難しかったことも事実である。安全に絶対はなく常に確率論のリスクマネジメントではあるが、日本において開催を続けていくためには、競技とのバランスを見極めながら安全に開催するノウハウを積み上げていく必要性を痛感した。

▶スプリント競技のプレゼンス

大会の継続にあたり、日本のオリエンテーリングシーンに占めるスプリント競技のプレゼンスを高めていく必要があることにも触れたい。

2022 年度の世界選手権大会で伊部選手が決勝に進出し、フット・オリエンテーリングの中で世界でも高順位を獲得するチャンスがあるのはスプリント競技ではないとも言われている。尾崎選手はスプリント競技一本に絞って世界に挑むことを公言し、長らくトップアスリートとして日本のオリエンテーリングシーンを牽引してきた。

一方で、ベテラン競技者を中心に競技者にその魅力が十分に伝わり切っていないためか、他の競技よりも全日本大会の参加者数は少ない。それを人気が足りない、の一言で片づけるのは浅はかではあるが、スプリント競技のプレゼンスが低いことで、金銭面・技術面・競技運営ノウハウのバックアップ体制がフォレスト競技よりも乏しいことは否定できないだろう。世界でも活躍できる余地をトップアスリートが見出しているにも関わらず、全日本大会の開催は厳しい状態が続いている、このギャップは非常にもったいない。

特に若手選手がスプリント競技の面白さや重要性を日本のオリエンテーリングシーン全体に対して訴え続けることが非常に重要であると私は考えている。スプリント競技はフォレスト競技と比較して種目そのものが若い競技である。競技者の望む声無くして、全日本大会の存続はあり得ない。繰り返すがスプリント競技の発展を望むものが、何を望んでいるのかを周囲に訴え続け、そのために自らが何をできるのか考え、行動に移さなければ、状況は何も変わらない。

4 主催者・問い合わせ先

主催者

▶主催

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

▶協力

高野 兼也（新潟県オリエンテーリング協会）

▶実行委員長

瀬川 出（日本オリエンテーリング協会）

▶運営責任者

富山 稜真（千葉県オリエンテーリング協会）

▶競技責任者

西下 遼介（上尾オリエンテーリングクラブ）

▶競技責任者補佐

平山 遼太（京葉オリエンテーリングクラブ）

▶コース・プランナー

尾上 秀雄（オリエンテーリングクラブサン・スーシ）

イベントアドバイザー

▶イベントアドバイザー

藤井 範久（茨城県オリエンテーリング協会）

スタッフ

青代 香菜子、石澤 俊崇、石田 潤一、石山 良太、
井村 唯、入江 崇、大場 節子、大場 隆夫、
小野 賢二、笠原 健司、鹿島 健人、木村 史依、
楠 健志、糸 早穂、上妻 紅音、小林 璃衣紗、
齋藤 真矢、佐久間 文香、佐藤 大樹、杉本 光正、
鈴木 璃土、滝沢 壮太、竹内 元哉、立川 悠平、
友田 雅大、根本 夏林、坂野 翔哉、笛木 典子、
松尾 七彩、丸山 幸太、丸山 則和、山川 順子、
山川 克則、山本 賀彦、渡辺 明弘

▶ブリテン編集担当

小柴 滉平

▶全日本オリエンテーリング選手権大会

ロゴデザイナー

伊藤 祐

▶試走協力

尾崎 弘和

問い合わせ先

▶電子メールアドレス

jsoc@orienteering.or.jp（瀬川 出）

▶電話番号

03-5843-1907（日本オリエンテーリング協会 事務局）

Web サイト・SNS

▶大会 Web サイト

<https://www.orienteering.or.jp/jsoc/2021/>

▶全日本選手権大会 Twitter @orienteeringJOC

<https://twitter.com/orienteeringJOC>

▶全日本選手権大会 Instagram @orienteeringjoc

<https://www.instagram.com/orienteeringjoc/>

▶公式ハッシュタグ

#全日本スプリント

#全日本スプリント 2021



2022 年度 全日本オリエンテーリング 選手権大会

オリエンテーリングはもっと、おもしろい。

2022 年 **10 月 8 日 (土)** **ミドル・ディスタンス競技部門**

第 11 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (ミドル・ディスタンス競技部門)

The 11th Japan Middle Distance Orienteering Championships 2022

2022 年 **10 月 9 日 (土)** **ロング・ディスタンス競技部門**

第 49 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (ロング・ディスタンス競技部門)

The 49th Japan Orienteering Championships 2022

山梨県南都留郡鳴沢村 ふじてんリゾート (ふじてんスノーリゾート) 付近

<https://www.orienteering.or.jp/joc/2022/>

202?年 ??月 ??日 (?) **スプリント競技部門**

第 15 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (スプリント競技部門)

The 15th Japan Sprint Orienteering Championships 2022

????????????????

<https://www.orienteering.or.jp/jsoc/2022/>

2023 年 **2 月 5 日 (日)** **リレー競技部門**

第 31 回全日本オリエンテーリング選手権大会 (リレー競技部門)

The 31st Japan Relay Orienteering Championships 2022

栃木県矢板市 ??????????

<https://www.orienteering.or.jp/jroc/2022/>

アスリートとサポートスタッフのみなさんへ。

なぜ、私たちにとって、アンチ・ドーピングの
知識や活動が必要なのでしょう？

アンチ・ドーピングは、たんに
「不正する人を見つけ、不当な勝利を防ぐ」ための活動ではありません。

アンチ・ドーピングは、スポーツを成り立たせている
「みんながフェアであること」を守るためにあります。
全員がフェアでなければ、そもそもスポーツは成り立たない。
すべての人が、スポーツに参加し、公平に競い合うことができる。
その権利を守るために、アンチ・ドーピング活動があります。

そして、もうひとつ。アンチ・ドーピングは、
「スポーツが生み出す価値」を守るためにあります。
挑戦する心、相手へのリスペクト、そこから生まれる友情、
そんな、社会にとっても大切な価値を守るためにあります。

フェアであることを守り、スポーツの価値を守る。
そのいちばん中心となるのが、アスリートとサポートスタッフのみなさんです。
みなさんが、フェアであることをつねに誇りに思い、
その大切さを、世の中に示すこと。
それこそが、スポーツの発展を支え、よりよい社会をつくる力になります。

フェアであることの誇りを胸に、すばらしいスポーツの価値を、
ともに広めていきましょう。



勝利を超える価値がある

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。



公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構